

# 中学受験の意思決定分析

—理想論だけの教育論争に対する異議—



慶應義塾大学 商学部 4年

第10期 権丈善一研究会

加藤藩 谷中絵理子

2009.07.11.Fri

# Today's Agenda

## 1. 前回のあらすじ

- 問題意識と研究意義、現状把握
- 神のお告げ

## 2. 前回の追加調査

- 各種教育懇談会メンバー
- 各国の教育制度、教育改革について

## 3. 今回の新規発表

- 仮説・検証

(中学受験率と、所得・不確実性との関係性)

# Today's Agenda

## 1. 前回のあらすじ

- 問題意識と研究意義、現状把握
- 神のお告げ

## 2. 前回の追加調査

- 各種教育懇談会メンバー
- 各国の教育制度、教育改革について

## 3. 今回の新規発表

- 仮説・検証

(中学受験率と、所得・不確実性との関係性)

# 1. 前回のあらすじ。

- **問題意識**

- なぜ中学受験をするのか？
- そのウラには教育政策の混乱と、公教育に足りない何かがあるのではないか？

- **研究意義**

- 教育分野では、規範的な立場で議論されることが多い
- 中学受験の要因分析を行った研究はない

# 1. 前回のあらすじ。

- 教育政策の歴史と教育の経済学的性質について見てみました。
  - 右往左往すぎる日本の戦後教育政策の変遷に失笑<sub>www</sub>
  - 教育＝公的に供給される私的財。  
(スティグリッツ公共経済学6章)
  - 教育需要は不確実性と所得によって決まる？

# 1. 前回のあらすじ。

## 神のお告げ

- 制度設計をしていく上で、どこに決着をつけるべきか考える。
  - どういう制度を作りたいのか？
  - そこで足引っ張ってる奴らは誰か？
  - どこで議論にトドメをさすか？

# 1. 前回のあらすじ。

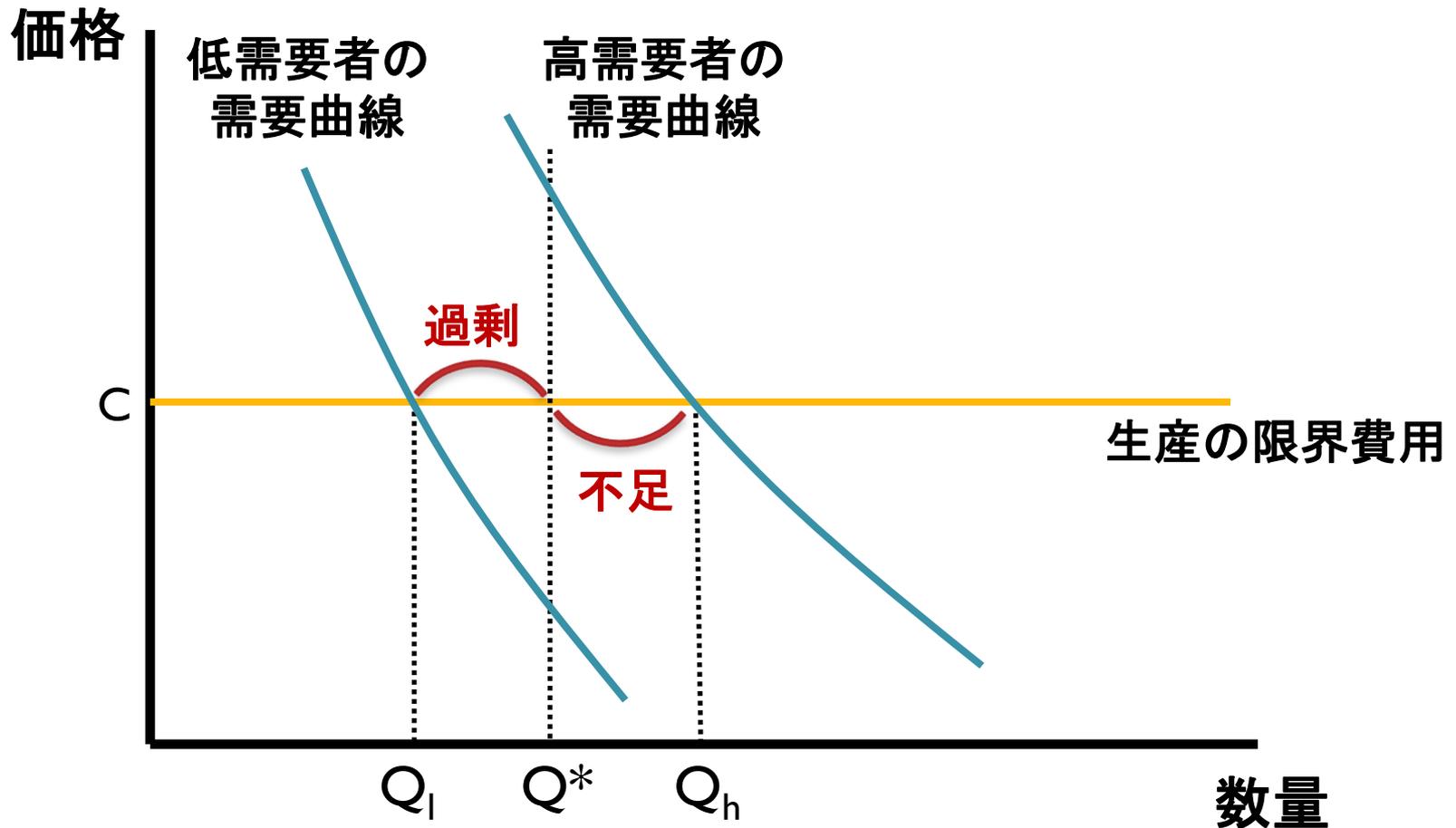
- 神のお告げへの返答
  - 制度設計に関しては、現在ぐるぐると思い悩んでいますので、もう少々お待ちください。
  - 現在は自分が作りたい制度についてぐるぐる悩みながら、現状の追加調査や中学受験の要因分析を同時並行で行っている次第です。
  - 私の頭は1週間悩んで簡単に答えが出るようにはなっていないようです...orz

# 1. 前回のあらすじ。

- 神のお告げへの返答
  - 中学受験＝絶対悪 とは考えていません。
  - 一律供給されている教育において、高需要者が中学受験したい！と思うことは当然だと思います。

# 1. 前回のあらすじ。

## 一律供給による資源配分上の歪み（再掲）



# 1. 前回のあらすじ。

- 神のお告げへの返答
  - 中学受験＝絶対悪 とは考えていません。
  - 一律供給されている教育において、高需要者が中学受験したい！と思うことは当然だと思います。
  - ただ、教育政策のせい（ex>ゆとり教育）で、受験希望者が増えてしまうのであれば、それは望ましくない。何故ならそれは、政府（文科省）の失敗だから。
  - というスタンスです。

# 1. 前回のあらすじ。

- 神のお告げへの返答
  - 私が目指すべきところ
    - 教育を受けることによって、全ての国民が使える人材になること
    - 国民に努力させる
    - 努力するインセンティブを作る
    - = 努力すれば報われると信じさせる
      - 報われる = 社会に出た後の話 = 労働分野...?
  - 教育政策では、どういう制度を作るか？  
でストップ中。

# 1. 前回のあらすじ。

- 神のお告げへの返答
  - とりあえずこの分野で足引っ張ってる人は、現在の教育政策の源流を作った臨教審あたりの人々と、理想論で教育を語っている人々、そして実態が曖昧なまま教育政策を作ろうとしている人々だと思います。（要するに、教育政策を語るほとんどの人）
  - 「中学受験の意思決定定理」を作って、それでトドメを刺そうかなあなんて...

# 1. 前回のあらすじ。

- と、ぐるぐるしてると何も発表できないので、これをちょっと頭の隅に置きつつ、調査を進めてみました。

# Today's Agenda

## 1. 前回のあらすじ

- 問題意識と研究意義、現状把握
- 神のお告げ

## 2. 前回の追加調査

- 各種教育懇談会メンバー
- 各国の教育制度、教育改革について

## 3. 今回の新規発表

- 仮説・検証

(中学受験率と、所得・不確実性との関係性)

## 2. 前回の追加調査 —各種教育懇談会メンバー—

※Excelファイル参照

- 世界を考える京都座会（松下幸之助主宰の私的政策提言機構）
- 中曽根首相の私的諮問機関
  - 文化と教育に関する懇談会
  - 臨時教育審議会
- 中央教育審議会（文科相諮問機関）

## 2. 前回の追加調査 —各種教育懇談会メンバー—

※Excelファイル参照

- 注目すべき人物
  - 慶應義塾大学歴代塾長
  - 山本七平
  - 天谷直弘
  - 渡部昇一
  - 曾野綾子
  - 河野重男

## 2. 前回の追加調査

### —各国の教育制度・教育改革について—

- '80～'90年代
  - 日本、アメリカ、イギリスなどの先進国で教育改革が行われる。
- 教育改革が起こる要因
  - 教育システムの内的不整合（学力低下、学校秩序崩壊）
  - 社会変化による外部からの要請（社会体制や経済構造の変化）

## 2. 前回の追加調査

—各国の教育制度・教育改革について—

- 日本（1984年臨教審創設）
  - 画一的教育→個性重視、創造性の育成
  - 教育内容の削減（のち、復活）
  - 学校の多様化、弾力化

## 2. 前回の追加調査

### —各国の教育制度・教育改革について—

- イギリス（1988年教育法改正）

※公立学校とパブリック・スクールが併存

- 地方教育当局主導→各学校の学校理事会（教師＋親）へ権限移譲
- 地方教育当局の管轄→国庫補助
- 教育への市場原理の導入強化（学校選択制）
- 全国共通カリキュラムの設定

## 2. 前回の追加調査

### —各国の教育制度・教育改革について—

- アメリカ（1983年カーネギー教育振興財団の報告書『危機に立つ国家』）

※連邦政府は教育財政のみ、基本的な教育法政は州による。全州共通の学校制度は存在せず。

- 住民の自治＋専門家の指導
- 基礎学力の強化
- 連邦政府から各州へ教育スタンダードの作成を要請
- 連邦政府の補助金による学校支援

## 2. 前回の追加調査

### —各国の教育制度・教育改革について—

- **韓国（'92・'97年教育課程改正）**
  - 学校や子供自身の裁量拡大
  - 必修履修科目縮小、選択科目設置
  
- **中国（'99年教育振興計画発表）**
  - 9年制義務教育の普及
  - IT、英語教育の必修
  - 子供や教師の徳育強化
  - 受験競争などの過重な学習負担軽減

## 2. 前回の追加調査

### —各国の教育制度・教育改革について—

- **ドイツ（'90年東西統一）**
  - 連邦全体の統一制度は、まだない
  - 教師＋父母＋生徒による学校自治の強化が増加傾向
  
- **フランス（'89年教育基本法成立）**
  - 学校の裁量強化（学校＝生活共同体）
  - 学力不振地域への優遇措置

# Today's Agenda

## 1. 前回のあらすじ

- 問題意識と研究意義、現状把握
- 神のお告げ

## 2. 前回の追加調査

- 各種教育懇談会メンバー
- 各国の教育制度、教育改革について

## 3. 今回の新規発表

- 仮説・検証

(中学受験率と、所得・不確実性との関係性)

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- 前回のあらすじ
  - 教育需要 $\equiv$  中学受験の意思決定要因は、「将来に対する期待（＝不確実性）」と「所得」によって決まるのでは？
  - でも不確実性を指標化するのは難しい。というか、よくよく考えないといけない。

という訳で、先に所得との関係を調べてみました。

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- **被説明変数 (Y) = 中学受験率**

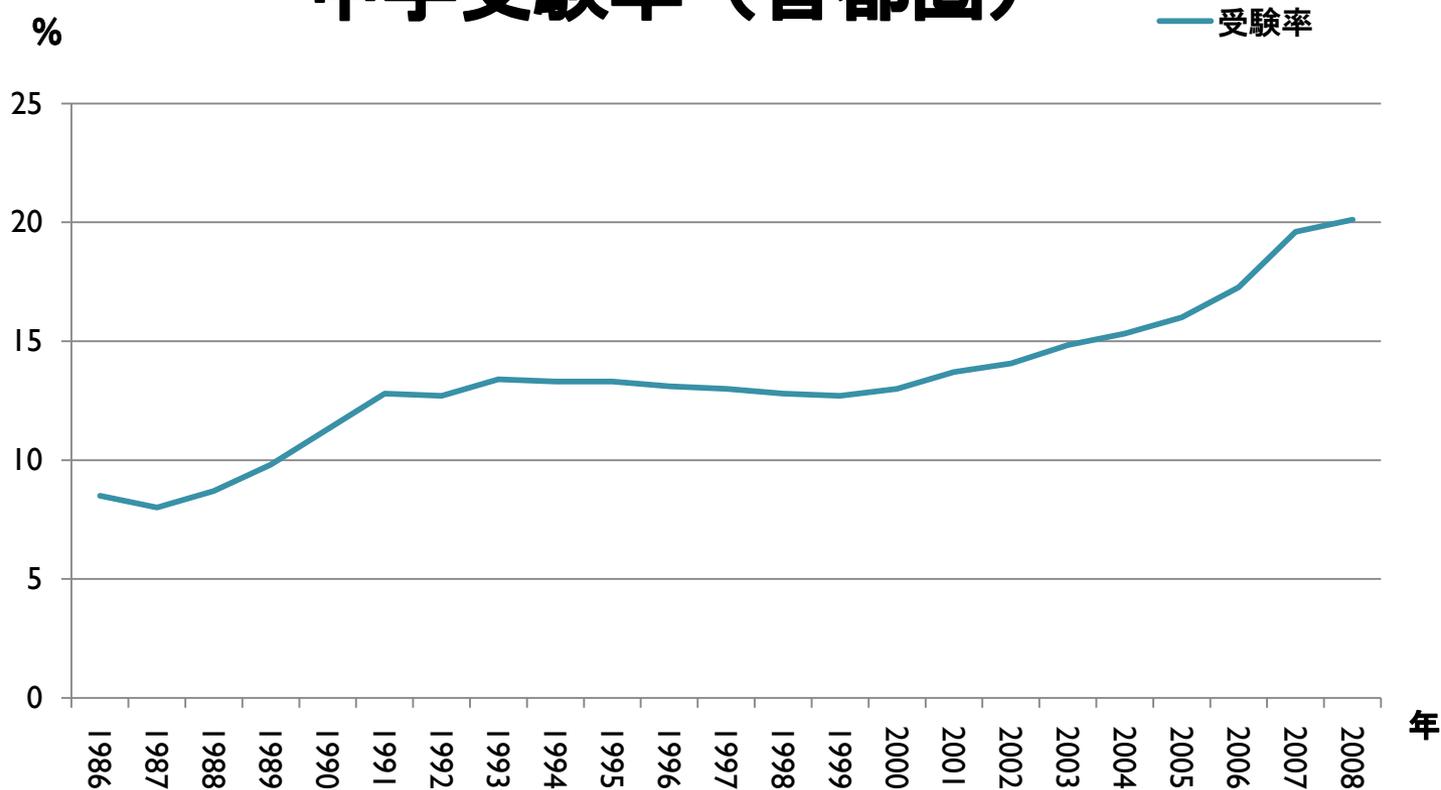
※今回からは、標本数を多く確保したいので、新たに見つけたベネッセのデータを使用します。

- **中学受験率 = 実受験生数 / 小6生数 × 100**
- **実受験生数は推定値 (1人が複数校を受験する機会が多いため、純粋な受験生数は適さない)**
- **小6生数は文科省「学校基本調査」より**

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

### 中学受験率（首都圏）



(出所)ベネッセ教育研究開発センター「中学校選択に関する調査報告書」

※首都圏＝東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城

# 3. 今回の新規発表

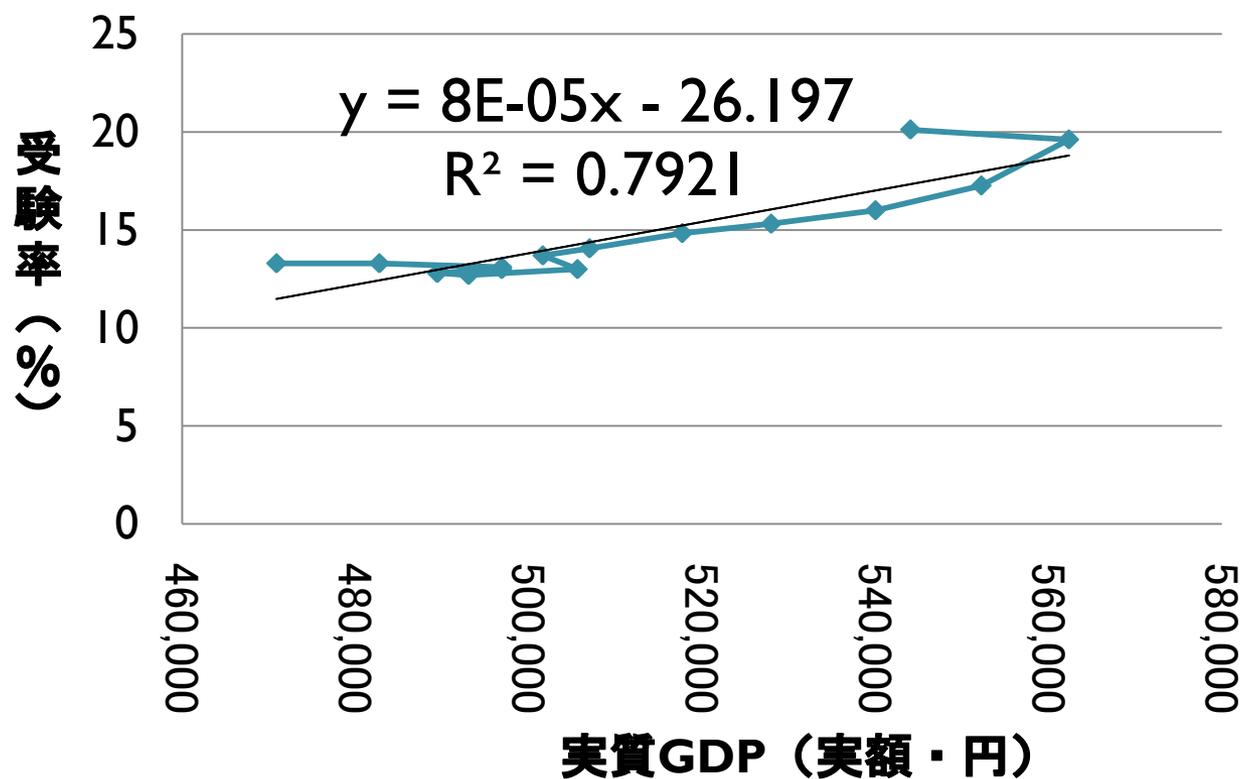
## —仮説・検証—

- 説明変数 (X) = 所得
  - 所得の指標といえば、GDP !
  - $GDP = C + I + G + (Ex - Im)$
  - 実額の実質値を使用
- $Y = aX + b$  として単回帰分析しました。
  - $GDP \uparrow \Rightarrow 受験率 \uparrow$
  - 所得  $\uparrow \Rightarrow 受験率 \uparrow$

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- 結果

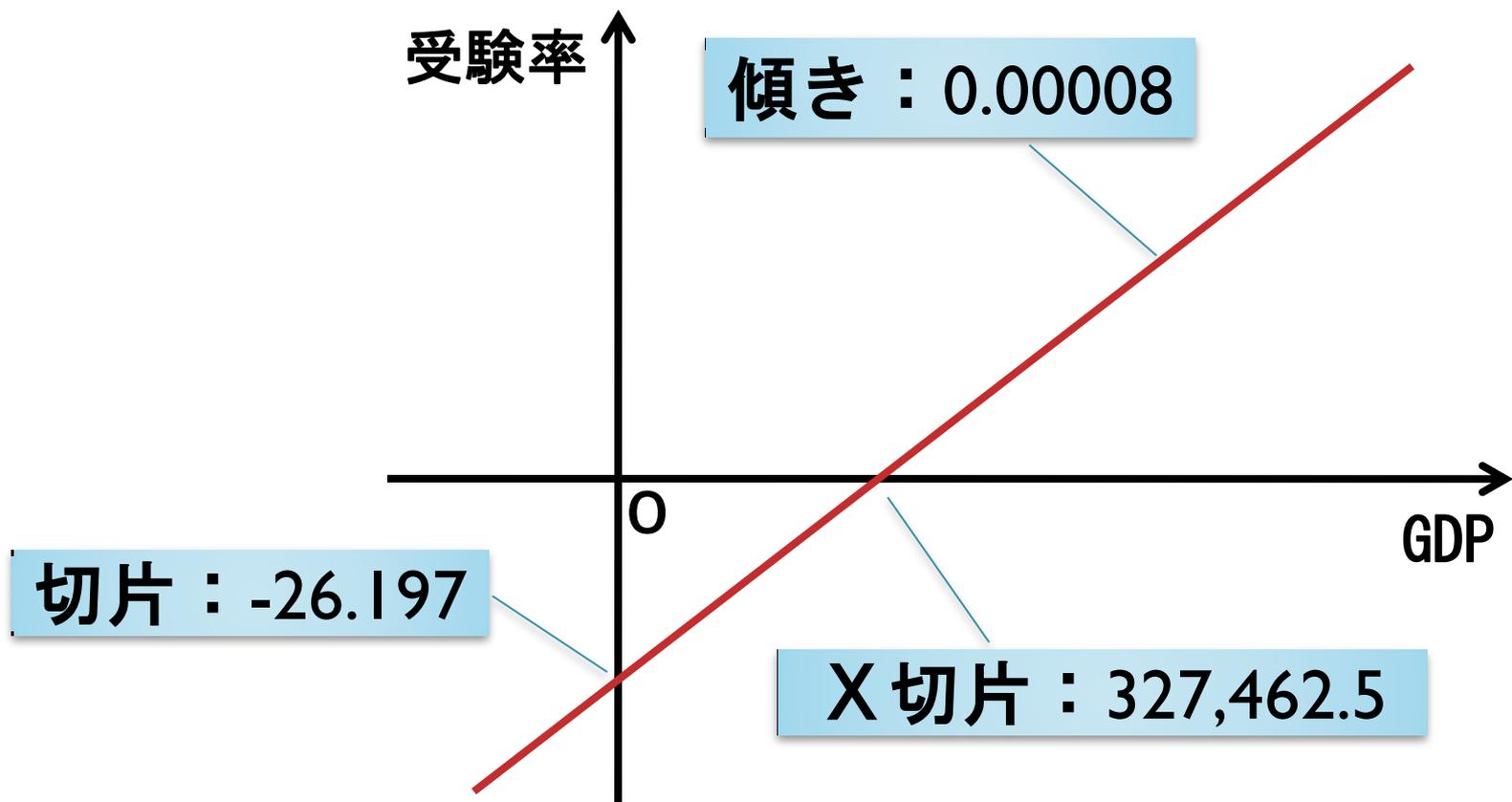


$t=7.037 > 2$ ,  $P$ 値  $= 8.83E-06 < 0.05$

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- 考察



# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- **考察**

- GDP水準がある時点（X切片）を超えると、中学受験を選択する人が出てくる。
- 中学受験は一定以上の所得のある人がする。
- 受験料、入学金、入学後の授業料、塾費用などを考えれば、所得がある人でないと中学受験はできない。

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- **考察**

- が、所得が高い人＝教育需要が高い人とは限らない。
- 「教育は正常財」だから？
- 何故所得が高いほど教育需要が高くなる（受験する）のか？

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- 不確実性について

- 先行研究の中川(1998)「不確実性下の消費者行動」、西岡・池田(2006)「不確実性下における企業の設備投資行動」を解読中

...○

一週間じゃ無理☆死

- 特に後者はプロビットモデル（選択行動の分析手法）も使っているので、結構応用できるかもしれません。

- 不確実性（＝実質売上高などの標準偏差） ↑  
⇒投資の不可逆性 ↑ ⇒設備投資 ↓

# 3. 今回の新規発表

## —仮説・検証—

- 教育における不確実性とは
  - ⇒ 将来に対する期待
    - 国・私立校に行けば薔薇色人生かも  
(賃金の高い職に就ける)
    - ⇒ 将来ありうる危険 (リスク)
    - 公立校にいたら薔薇色じゃないかも

どちらにせよ不確実性 ↑ ⇒ 教育投資 ↑

## 次回予告 という名の、今後の展望

- **先行研究の解読。**
  - 英語の論文にそれらしきものがありそう
- **不確実性を定式化したい**
- **教育政策の評価について勉強**
- **その他、随時追加調査**

# 参考文献・URL（追加分のみ）

- 西岡慎一・池田大輔(2006)「不確実性下における企業の設備投資行動：リアルオプション理論に基づいた実証分析」日本銀行調査統計局
- 中川忍(1998)「不確実性下の消費者行動—不確実性の理論とその定量化—」日本銀行調査統計局
- 松浦良充・文責(2008)「教育政策と教育学研究との対話—教育学は政策学たりうるのか—」『教育学研究』第75巻,第1号
- 青木栄一(2009)「教育政策研究の現在」『教育学研究』第76巻,第1号
- ベネッセ教育研究開発センター(2007)「中学校選択に関する調査報告書」
- 日本銀行 <http://www.boj.or.jp/>
- 国立教育政策研究所 <http://www.nier.go.jp/>
- ベネッセ教育研究開発センター <http://benesse.jp/berd/>
- 日能研 <http://www.nichinoken.co.jp/>

ご清聴ありがとうございました☆

